

第2回蒲郡市シティセールス基本方針策定委員会 会議録

開催日時	令和2年11月10日(火) 午前10時～		
開催場所	蒲郡市役所3階 303会議室		
出席者	<p>『蒲郡市シティセールス基本方針策定委員会委員』</p> <p>(委員長)</p> <p>蒲郡市産業環境部 部長 贅年宏</p> <p>(副委員長)</p> <p>蒲郡シティセールスプロジェクト プロジェクトリーダー 千賀充能</p> <p>(委員)</p> <p>蒲郡シティセールスプロジェクト 応援隊リーダー 水野順也</p> <p>蒲郡商工会議所 中小企業相談所長 松岡祐志</p> <p>蒲郡青年会議所 理事長 酒井伸豪</p> <p>蒲郡市観光協会 事務局長 鹿野公朗</p> <p>蒲郡市農業協同組合 営農販売部部長 金澤利保</p> <p>蒲郡市漁業振興協議会 会長 小林俊雄</p> <p>蒲郡信用金庫 地域振興部部長 長瀬克夫 代理</p> <p>〃 副部長 仲田勝成</p> <p>愛知県飲食生活衛生同業組合 蒲郡支部青年部長 笹野弘明</p> <p>蒲郡市総代連合会 会長 細井政雄</p> <p>がまごおり市民まちづくりセンター 代表 金子哲三</p> <p>蒲郡市企画政策課 次長 牧原英治 代理</p> <p>〃 主事 青木佑紀</p> <p>〃 秘書広報課 課長 浅野勝貴</p> <p>〃 協働まちづくり課 課長 松井英樹</p> <p>〃 子育て支援課 次長 高橋晃 代理</p> <p>〃 課長補佐 伊藤孝慶</p> <p>〃 観光商工課 課長 小田芳弘</p> <p>〃 農林水産課 課長 山田浩隆</p> <p>〃 企業立地推進課 課長 成瀬貴章</p> <p>〃 学校教育課 課長 小澤良充</p> <p>〃 生涯学習課 課長 三浦次七郎</p>		
	<p>【事務局】</p> <p>蒲郡市観光商工課シティセールス推進室 室長 小山道德</p> <p>〃 主事 来本晃彩</p>		
議 題	<p>(1) ワーキング会議報告</p> <p>(2) 今後の取り組みについて</p>		

<p>会議資料</p>	<p>資料1 ワーキング会議開催結果報告 第1回～第3回</p> <p>資料2 コンセプトについて</p> <p>資料3 第2回策定委員会事前依頼事項</p>
<p>会議内容</p>	<p>1 開会 (事務局)</p> <p>本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。ただいまから、第2回蒲郡市シティセールス基本方針策定委員会を開会させていただきます。</p> <p>委員会の開催にあたりまして、委員長からご挨拶をいただきます。賛委員長、よろしく願いいたします。</p> <p>2 委員長あいさつ (賛委員長)</p> <p>おはようございます。</p> <p>本日はお忙しいところ、第2回策定委員会にお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>全国で新型コロナウイルスの感染者が増えており、第3波ともいわれています。愛知県も同様の傾向で、昨日発表された県内の感染者では2人が蒲郡市の方です。近隣市では接待を伴う飲食店でのクラスターが発生したと報道されていますので、感染防止対策の再確認をお願いします。9月に第1回策定委員会を開催して以降、ワーキング会議を3回開催して毎回熱心に議論をいただき、コンセプトをまとめていただいております。</p> <p>本日の委員会では、ワーキングの経過、コンセプト、今後の取り組みについて説明いたします。</p> <p>どうかよろしく願いします。</p> <p>(事務局)</p> <p>本日の流れについて、簡単にご説明申し上げます。</p> <p>次第をご覧ください。このあと、次第の3議事に入りまして、(1)ワーキング会議報告として、前回の策定委員会以後、3回にわたり開催されたワーキング会議の内容についてご報告をさせていただきます。合わせてワーキング会議において、蒲郡のシティセールスのコンセプトとしてふさわしいとされた「がまごおりじなる」について、ご説明をさせていただきます。続いて、(2)の今後の取り組みについてとして、コンセプトにかかる事業展開やそのほか、シティセールスにかかる取り組みについて、各委員さまからお話をいただきたいと思いますと考えております。概ね11時半ごろの終了を予定しています。</p> <p>次に、配布資料の確認をさせていただきます。</p>

	<p>資料1 ワーキング会議開催結果報告 第1回～第3回 資料2 コンセプトについて 資料3 事前依頼事項について 不足している資料はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、これからの議事進行は、要綱第5条第1項の規定により賛委員長に議長をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。</p> <p>※以下、である調で記述</p> <p>(賛委員長) それでは、会議の議事進行をさせていただきます。皆様方のご協力をお願いする。</p>
	<p>3 議事 (賛委員長) 一つ目の議事として、「ワーキング会議開催報告」について、事務局から説明をお願いする。</p> <p>(1) ワーキング会議開催報告</p> <p>(事務局説明) 資料1、資料2を説明</p> <p>【質疑応答】 (賛委員長) ただ今の事務局の説明について、ご質問・ご意見は。 ワーキングにオブザーバーで参加した千賀副委員長、水野委員から補足があったらお願いしたい。</p> <p>(千賀副委員長) 若い人がワーキングに参加しており、若い人は蒲郡に対する気持ちが薄いかと思っていたが、皆さん蒲郡に対しての想いがあり、意見もあつた。蒲郡を愛しているとすごく感じた。 若い人達が本気で立ち上がれば蒲郡はどんどん変わってくる。</p> <p>(水野委員) 様々な女性がワーキングに参加したが、人が増えればいろいろな意見が出て、シティセールスに取り組んできたわれわれでも思いつかなかつたことが多く出た。これをどうやって進めていくのが課題となる。 「がまごおりじなる」は語呂の悪さがあるが、どうやって市民のコンセプトにするのが課題である。</p> <p>(松岡委員) ワーキングに参加している若い女性が意欲的で、グループワークも活</p>

気があり、アイデアも具体的なものが出て、すぐにでもやっっていこうという熱意も感じた。

若い方々の取り組みを具現化するサポート体制をどうつくるのが課題であり、策定委員会でも検討課題になる。

(賛委員長)

ワーキングにオブザーバー参加された方の意見、本日の資料を踏まえて、ご意見、ご質問は。

市の方で何かないか。

(観光商工課)

蒲郡はいろいろな魅力があるが、観光でもおんぱくとかいろいろやってきたが、尖ったものがない。尖らせるのが良いかは分からないが、どうのように発信していくのか課題と思っていた。若い人の意見でも良い物はいっぱいあるが尖っていない。

蒲郡には何でもあり、尖っていないが蒲郡のものとして発信していくことで、コンセプトは合致している。良いものを外に発信することができていなかったのも、ツールとしての「がまごおりじなる」は良い。

今までロケなどを通じて発信してきたが、もう少し蒲郡の魅力を発信する意味で「がまごおりじなる」はマッチする。

(賛委員長)

コンセプトなどについてのご意見、質問は。

(企業立地推進課)

コンセプトについて観光は尖ったものとなるが、企業立地では尖っていない部分がちょっと変わった日常ということで、誘致する時にそういう生活ができると提案できる。

コンセプトは「がまごおりじなる」と「君のいいところ」については、違う印象があり、「がまごおりじなる」は情報発信の印象。「君のいいところ」は蒲郡の価値の提案という感じである。二つのコンセプト案は利用目的が変わってくる。

ワーキングでは、そういった意見は。

(事務局)

焦点になってきた部分であり、良い場所を紹介する方向性、一方、シティセールスをみんなで行っていくということで、行動をしていくことを重視している。オリジナルとして各団体はどういうことをやっていくのか。

誰かがシティセールスを進めるのではなく、みんなが私はこういうことができるという方向性で「がまごおりじなる」が相応しいと考えた。

(賛委員長)

今のことについてほかにご意見は。

(小林委員)

人口減少に歯止めをかけるには、企業誘致をして若い人の働く場をつくる、あるいはベッドタウン化を進める。ほかの市の会合でお母さん方に聞くと、蒲郡は子育てしやすい、具体的には市外の人に分かりにくいところがある。蒲郡に来れば、こういう子育て支援サービス、手当があるなど、ほかの市町村と違うことを出すべきである。

県内でも名古屋市周辺では人口が増えているので、蒲郡は土地が安いなど、蒲郡に来れば良いことがあることを具体的にPRするとよい。

(事務局)

各分野でのオリジナルをどんどん出していこう。当たり前のようなサービスでも、子育てでは児童館があるが、中学校区に一つずつあるのはほかの町でそんなにない。子育て環境を充実させているので、そういうことを「がまごおりじなる」で打ち出して、市の魅力を打ち出すことができる。

(贅委員長)

そのほかの委員から何か。

(鹿野委員)

「がまごおりじなる」は決定か。

(贅委員長)

ワーキングでこの案でどうかということで、決定はこの策定委員会でこの後、了承をいただく。

(鹿野委員)

「がまごおりじなる」と初めて見た時に、言葉のリズム、蒲郡とオリジナルがくっつくものと思うのに時間を要した。キャッチコピーは分かりやすさが重要である。

ここにしかないという蒲郡らしさがオリジナルということかと思うと、オリジナルはここにしかないものが蒲郡らしさ、それがオリジナルと伝わるようにキャッチコピーを説明すると良い。

「がまごおりじなる」が蒲郡とオリジナルという説明がキャプションにあると、意味がとらえやすいと思った。

これをコンセプトにするのであれば、言葉の意味がすぐに分かるようにした方が浸透しやすくなる。

(贅委員長)

キャプションについてのご意見であった。

(事務局)

キャプションについては、説明が曖昧という意見があり、今後改良していきたい。

「がまごおりじなる」は分かりにくいという意見もいただいていたが、

	<p>オリジナルということで独自の魅力を発信したい時に、オリジナルを使い、それが市の名前と使うことができるのはほかにはない。蒲郡であるからオリジナルという言葉も使うことができるという意見もあった。</p> <p>分かりにくさについては、逆に何だこれと見てもらうこともできるので、唱え続けることで定着を図りたい。</p> <p>(贅委員長)</p> <p>キャプション、キャッチコピーについてご意見があれば、よろしいか。</p> <p>それでは、コンセプトはワーキングの議論に基づき、「がまごおりじなる」で進めることについて、承認いただけるか。</p> <p>よろしいか。</p> <p>ご承認いただいたことで、キャプションについては引き続き議論する。次の議事、今後の取り組みについて。</p>
	<p>(2) 今後の取り組みについて</p> <p>(贅委員長)</p> <p>事前に各委員に送付した「がまごおりじなる」の関連事業、シティセールスに関連してできそうな事業についてお願いしたが、ご発言をいただきたい。</p> <p>まず、私から発言して、委員の皆さまのご意見を順次うかがう。</p> <p>①については、市として大きなくくりで実施すべきことは、様々な団体、民間が現在も行っている活動を結び付けたり、スポットを当てて、活動しやすくなるように多くの方々に活動を知っていただけることを官民が連携して組織的に行うことが必要と考えている。</p> <p>②については、シティセールス推進室ができて、今年実施を予定していたが新型コロナの影響で開催できなかった事業がある。うどんサミット、「ゾッキ」の原作者の長編アニメ「音楽」の市内での上映については、実施していきたい。深海魚まつりは昨年初めて実施して、秋は中止となったので3月に実施していきたい。</p> <p>(松岡委員)</p> <p>ワーキングのアイデアから少し絞って、できそうなものがあればと考える。来週、三河生産地のテックスビジョンの展示会を開催するが、インテリア製品、マスクの素材なども求めてもらっている。繊維の産地という産業文化もあるので、外に発信していく。アイデアの中では世界一長い機織りギネスへの挑戦については、企業にも呼び掛けて、竹島の機織りが体験できるセンターで、市民にも呼び掛けながら進めることができると良い。</p> <p>ヘルスケア産業の振興ということで癒しとアンチエイジングを進めていくが、がまごおりじなるいやしツアーというアイデアがあったが、わ</p>

れわれが行ういやしとゆとりとツアーのプログラムで企画できるとよい。

昨日、会議所の記者会見で発表した。蒲郡ベンチアートプロジェクトを進めていきたい。シティセールスプロジェクトが中心となって企画を進めていくが、海を眺めながら想いを馳せて、人生を振り返る、生活の質を高めるスポットを演出していきたい。

(酒井委員)

子育て世代向けに行った事業で蒲郡探偵学校を開催した。親子で参加して蒲郡の魅力に関する謎解きの事業であった。子どもが楽しめる事業として行ったが、子育て世代に蒲郡の魅力を再認識してもらって分かっていただくことが目的であった。親子で参加して、魅力を一緒に探せるような事業を抱き合わせると効果的であるので、われわれが力になれる。

新城市では若者会議が盛んで、その蒲郡バージョンを準備している。若い人たちの会議の中で、「がまごおりじなる」に特化した会議を呼びかけることができる。と考える。

先日、1日限定の弁当を楽しんでいただく事業を開催した。各種チケット、商品券も合わせて好評であったので、1日限定のプレミアム感の出ることと各種チケットを組み合わせれば効果が出る。蒲郡の魅力がある食べ物も組み合わせるなど、市民の皆様と協力して「がまごおりじなる」ができる。

(小林委員)

深海魚についてメヒカリは10年前に成功してきたので、水揚げがあれば継続したい。

蒲郡の大きな春の潮干狩りは平成21年がピークでどんどん下がった。今年は生育が悪く潮干狩りができなかった場所もあるので、県と協力して三河湾のリンの規制を必要以上に規制しない、冬場は上限に近いところで出してあさりの生存を図っている。しかし、なかなかうまくいかないが、春日浦ではハマグリがよく生育していたので、それで潮干狩り。明後日、水産高校の前で、親貝から稚貝を育てたものを放流する。

蒲郡の春の海岸で潮干狩りができるようにしたい。

(笹野委員)

団体として実施していることは、YouTubeにチャンネルを立ち上げて、飲食店を宣伝しながら蒲郡を発信している。蒲郡に関するYouTubeはいろいろなところから発信されており、同じ窓口で一つのところから発信した方が波及効果は生まれると思う。

ワーキングのアイデアでは、既に行っていることも多くあるが、大きなものになってきていなくて残念である。みなさん一緒になってやっていると、今後大きなものとなる。

今後、飲食の隠れた名店、グルメを再発見するグルメフェスを令和3年3月に開催したい。イースターエッグ、復活祭の卵にいろいろ詰め込んで、中に特典などを入れるという企画を立てている。グルメ、飲食は

シティセールスと切っても離せないので、今後、おもしろい取り組みもできる。

(金子委員)

みなさんが自分事にどうしていくのかが大事である。市民の中で語られる構造をつくるのが私の担当と思う。

皆さん自分達の動きとリンクしやすいように、資源や動きをどの時点で前に進めるのか、資源カレンダーのような形やエリアマップで落とすことが良い。それを「がまごおりじなる」として語ってもらえる、使ってもらえることが大切である。市民団体に語ってもらえるように、まちづくりの展開で動いていくのが息長く続く。ボトムアップでの手をぜひ考えていただきたい。

その中ではコロナの関係でリモートになっており、リモートサロンの中で、「がまごおりじなる」を皆さんにかかわってもらえるような簡単な説明を作ってもらおうとよい。名刺もあるが、リモートの背景で「がまごおりじなる」を作ると、コミュニケーションツールとして用いることができる。

(協働まちづくり課)

コンセプトを読むと、課の事業の全てに該当する感じもするが、たとえばまちづくり事業では、協働まちづくりの助成金事業を行っている。コロナ禍の中での各団体の事業についてもコースを創設して展開している。

国際交流、多文化共生も日本語教室を市内3か所で開催しているが、今年は全市型日本語教室ということで新たに開催した。

男女共同参画では、先日婚活イベントを開催した。昨年度は2回予定して開催できなかったが、今年は男女10名ずつ集まった。参加者の意見では、蒲郡はすばらしい、引き続き住んでいきたいということで申し込んだ人が多数いた。住み続けたいという思いをいろいろな事業でサポートする必要があると感じた。

次年度の事業では、まちづくり会議の中で、愛知工科大学と産学官事業ということで、学生が企業を自分の足で訪問して紹介する事業を予定している。

多文化共生では、外国人が3千人、人口の4.1%を占めており、外国人の相談窓口の設置を準備している。転入届の際の生活ガイドブックをリニューアルする。

(観光商工課)

観光商工行政の全ての事業が「がまごおりじなる」に関連する事業となる。

蒲郡まつりは特別であり、商業と観光、市民の祭りとして行われており、ここに出席の皆さんもほぼからんでいる。蒲郡でしかできない海沿いの花火など、見つける、つくる、広げる要素を備えている。観光の要素のみではなく、いろいろなことを紹介する人を呼び込んで広げること

についても祭りは使える。作り上げたものを市民に発表する場合も使える。今まで市民の祭りと思っていたことが、「がまごおりじなる」のものとなる。

これから取り組んでいきたいことは、観光協会と飲食店マップを作ること、商品開発としてはロケ地をめぐるツーリズム、景観を生かしたサイクルツーリズム、海を利用した商品開発を進めていきたいと考えている。

商工会議所とは全ての産業の振興ということで協議を進め、ベンチアートプロジェクトについては一緒に進めたい。

(企業立地推進課)

デジタルトランスメーション、Society5.0 など、オンラインとオフラインが近づいている状況である。企業誘致の際に、ライフスタイルのブランディングを行いアピールすることが重要になっている。蒲郡は土地も少ない中で誘致競争を行うので、蒲郡らしさを魅力に感じてもらい蒲郡で働くことをアピールする必要がある。

取り組む内容としては、皆さんの取り組んだ内容を外にアピールすることが役目と考えるので、誘致に際してはどんどん情報を出しながら進める。

(生涯学習課)

俊成短歌大会は毎年実施しているが、「がまごおりじなる」という切口で実施することが可能である。

市民憲章については、他市では蒲郡と違う内容が多いので、市民に浸透しているので珍しく、オリジナルと言える。

大島も蒲郡の資産として、科学館で夜星空を見るツアー、竹島などの岩がどうできているのか理科教育につなげるようにする。蒲郡が理科教育に手厚い町と展開すると「がまごおりじなる」になる。

公民館では市内向けに住みよいまちということで、高齢者が暮らしやすいまちづくりという逆転の発想がある。

音楽のまち蒲郡として、吹奏楽ということであり、市民ワークショップを実施しており、成果発表を行い内外にアピールしたい。

全体的には尖ったものがないイメージが強いので、何をもって蒲郡のオリジナルと言えるのか魅力の深堀をする必要がある。

(学校教育課)

学生の力、若い柔軟の発想を取り入れることが必要である。たとえば、キャッチコピーやロゴを学生から募集するなど、子ども達が魅力を感じる手段を検討する、学生がまちづくりに参画するチャンスを提供する。一番すばらしいものは市長賞を出すなど、子ども達が気軽に応募することが広がると、新しい視点も見えてくる。

高校も3校あり、三谷水産では醤油を作っているなど、市民へのPR不足がある。高校生がやっていることをPRにどうつなげるのか高校生にも考えてもらう。蒲郡東高校、蒲郡高校は生徒の減少が著しい。よそから来ずに、地元の人には外に通学している。蒲郡の高校に通いたいとい

うような地域づくり、通っている高校生が良さを発信することができるように、高校生が参画できること考えていくべき。

音楽のまち蒲郡と言ってきたがメンバーは高齢化しているので、若者に音楽の良さを知ってもらいたい。市制 40 周年に蒲郡のイメージソングが作られたが、ほぼ知られていない。浸透するための施策は必要であり、駅のプラットフォームで流すとか、ほかにも千賀投手のソフトバンクの音楽を流す、「ゾッキ」は電車の側面に書いて走らせるなどのアイデアが考えられる。

市民憲章の歌があるが、19 年ぐらい前に竹島小学校で歌うようにした。いい文化をもっと広げていけるようにするとよい。PR、良いものを掘り起こす作業も大事である。

(農林水産課)

水産物、農産物を中心に市が実施する農林水産まつりなどの催し、各漁港の水産まつり、地魚、竹島水族館の官庁が実行委員長の深海魚まつりもあり、シティセールス推進室に相談しながら進めたい。

来年度以降も、水産や農業のコンテンツを中心に様々なことを進めていきたい。

市民憲章は出身中学校では盛んに歌われていたので、歌えないということは驚いた。

(子育て支援課)

保育園では待機児童を出さないように、最低限行うべき事業を確実に行うのが前提である。0、1、2 歳児の入園が右肩上がりであり、受け皿確保をきちんと行っていく。今のところ確保しており、子育てしやすいまちにつながっていると思う。

オリジナル＝シティセールスであり、たとえば児童館は中学校区に一つあるのは蒲郡の売りである。児童館を巡るスタンプラリーなど声が上がったこともあるが、児童館から遊びを家でも見れるように YouTube に上げて情報を発信した。県内の児童館の集まりでも、YouTube による発信が注目されたので、売りにしたい。

虐待に関連して、ソフトバンクの千賀選手は児童虐待防止に三振一つにつき 1 万円寄付する活用をしており、選手を使った蒲郡市オリジナルポスターも作った。

(秘書広報課)

見つけようでは、市民に対してはいいじゃんがまごおりのインスタグラムで自然や風景を広報担当のカメラマンが出かけて撮影し掲載しようとしている。蒲郡に魅力があったことを少しでも発信したい。

広報では市民向けに表紙に「ゾッキ」の記者会見の様子を出して、東京からも紙ベースでほしいという問い合わせがあった。表示、裏面で発見蒲郡というコーナーで千賀選手など出身者を紹介したりしている。いろいろなネタを広報担当に寄せていただいたり、記者発表では県内に情報発信ができるので、情報を寄せていただいて PR を広げたい。

(企画政策課)

移住定住の促進事業を持っており、魅力の情報発信ができる。移住定住のガイドブック「うみ やま 子ども がまごおり生活」を来年リニューアルするので「がまごおりじなる」などを発信できる。ツールを活用して、市内外でも展示ブースを出しており、魅力の情報発信ができる。

産学官連携の窓口も行っており、魅力の再発見、発信で工科大学や愛知大学の学生との連携もできる。

SDGsの蒲郡版の推進ということで、特徴のある事業展開を進めていきたい。

また、健康推進課の健康化政策全庁的プロジェクトがあり、若手職員も参加しているが、全国的に類を見ない。いろいろな施策について他市との違いを出していくことが重要である。

(細井委員)

20、30年後は若者にとって暮らしやすいまちづくりについて、総代会でも話題にしている。

私の地域では、愛・道路パートナーシップ事業として県管理の道路を定期的にきれいにしている。通称市役所通りの一部の歩道の清掃の手伝いをする。年間4回、ボランティアで行う。地域で募集したところ、20～30名の高齢者が参加した。ごみでも30kg、空き缶、ペットボトルも結構ある。これをやると隣の地域からうちもやらないとという声が広がる。

東港の開発推進室ができたが、過去にも水族館辺りの開発、整備を進める計画があった。蒲郡に観光に来て、竹島では土産物、飲食店もないという声が多い。周辺について土産物を賄えることができないかということで、港など総代とも相談して、手がかりをつくろうと軽トラ、キッチンカーなどを定期的に置くようなことを総代会として協力できないか。

子どもの数が減るので、小中一貫教育ができるところ、できないところがあるのが課題である。特別支援学校も蒲郡に開設できればよい。

俊成短歌大会について全国大会もできるようなしくみづくりができないか。

いろいろな放送が流れているが、市民憲章の歌を流すなど、みんなにPRできるようなこともアイデアになるのではないか。

(代理 仲田委員)

蒲郡信用金庫では従来通り、皆さまのお手伝いをすることや、シティセールスに係る活動について、市内外の支店でPRを行っていききたいと考えている。シティセールスのポスター等ができれば掲示するなど、協力ができる。今まで出たいろいろな取り組みもお手伝いしている。

SDGsについては蒲郡市と提携しており、単独ではなく支援や助言といった形で取り組んでいく。

(金澤委員)

11月30日からセブンイレブン、ローソンから蒲郡みかんを使ったサ

ンドが販売される。ローソン、セブンから取り組んだことであり、いろんな業者が蒲郡を使えば商売になっていけばよい。

コロナ禍で家族そろって買い物がしにくい中、JAのHPでみかん、いちごの収穫体験ができ、買い物かごに入れるとAコープなどで引き渡りしたい宅配できるようなことを考えていたが、取り組めていない。

実施につなげるためには、オレンジパークと相談しているが、旅館に泊まってくれた人が蒲郡の応援隊になるような展開をしていきたい。

蒲郡に行きたいという人がHPをクリックすると、三河木綿を着てホテルを楽しんだり、みかん狩り、潮干狩りが体験できることが実際のことにつながる。蒲郡に住みたい場合には、リアルに疑似体験ができ、現実につながると市の人口も増えて活性化する。

(水野委員)

今朝、西浦マーケットに魚を買いに行ったが、商人も買いに行くように安い。知柄漁港をながめていたら、スナメリが泳いでいた。暮らしの近くで見れるのは良い場所である。

官民一体で進めることで、どうやったら皆さんと連携できるのかについて、組織づくり、全体のマネジメントを決める必要がある。

うどんを売りに行くのではなく蒲郡を売りに行くというメンバーがいたが、まさにその通りである。コンセプトを忘れると、うどんがいくら売れたような話になるので、コンセプトをはずさないのが大事である。

これからは市民に向けたPR、市外に向けたPRの二方向を分けてきちんと伝えることが必要である。

(千賀副委員長)

グルメ、ロケの二本立てで8年ぐらい進めてきたが、市長も官民一体でということで全国にPRしたいということである。

尖ったものはないということであるが、うどんサミット、グルメ、ロケを進めてきたが、3月には「ゾッキ」が上映になる。その前に鬼滅の刃がヒットしたが、ロケーションが蒲郡の雰囲気である。

スポーツツーリズム、健康になれる、走れる、自転車に乗れる、ラグーナから西浦までのマラソンなど、今やっておけばメジャーになることを発掘しながら進めたい。うどんも12月の初めに香川に行くが、蒲郡のうどんの知名度は上がった。

蒲郡で行われていることで知らない事業があったので、どうやったら市民に伝わるのかが大事である。

(贅委員長)

他の委員の発言について質問は。

時間も過ぎたので、本日の議事は以上であるが、全体を通じての質問はよろしいか。

それでは、事務局に進行を返す。

	<p>4 その他</p> <p>(事務局)</p> <p>次回の本策定委員会の開催について 来年3月に最終回となる第3回を開催させていただきたい。日程については後日ご案内させていただく。</p> <p>ワーキング会議の開催については、第4回を11月18日(水)14時から、第5回を12月9日(水)14時から、いずれも生命の海科学館メディアホールにて開催させていただく。</p> <p>参加について、ご配慮のほどよろしくお願ひしたい。</p> <p>5 閉会</p> <p>それではこれもちまして、第2回蒲郡市シティセールス基本方針策定委員会を閉会する。</p> <p>長時間にわたりありがとうございました。</p>
--	---